

本部ニュース 128 号より

LCJE Bulletin 128

## Jewish Mission Responses to Growing Global Anti-Semitism

By Dr. Mitch Glaser, President, Chosen People Ministries

### 増大する反ユダヤ主義に対応するユダヤ人宣教団体

チョーザン・ピープル・ミニストリーズ代表 ミッチ・グレイザー

**編集者覚書：**このレポートはオリジナル版を短縮したものです。完全原稿は、LCJE ネットウェブサイト, CEO ウェブページに掲載されています。

\*\*\*\*\*

#### 概論：反ユダヤ主義とは

名誉毀損防止同盟（ADL）の定義づけが、その意味するところを良く述べていると思います。

ユダヤ人であるということだけで、ユダヤ人に対する敵意、あるいはそれを表す信条行為をいう。たとえば、ユダヤ人の劣等性を宣言するような宗教的教育、孤立させるように政治的活動を行う、彼らを抑圧する、もしくは、傷つける事さえする。また、ユダヤ人に対して偏見を持ったり、固定観念を持ったりすることも反ユダヤ主義といえるだろう。

反ユダヤ主義は、アメリカでは、上昇傾向にあるようです。ユダヤ人宣教団体として、今日のユダヤ人にとって大きな関心事であるこの重大なトピックについて言葉を発することは大切なことです。

私は、この問題を、アメリカ、南・北アメリカの観点から見てみたいと思いますが、最初に、アメリカでの反ユダヤ主義の形、成長という視点から論じたいと思います。反ユダヤ主義の脅威的な高まりに対し、私たちが何を成してきたか、過去の出来事にさかのぼり論じたいと思います。これは、今日の問題と相似性があり、どのように対処すればよいかという教訓を提供してくれると信じています。最後に、ユダヤ人宣教団体が、ユダヤ人をサポートし、反ユダヤ主義に対抗することができるよう、いくつかの提案をしたいと思います。

#### アメリカにおける反ユダヤ主義事件：概観

反ユダヤ主義が、アメリカ、カナダで上昇傾向にあるかないかという問題が論じられ、特に、アメリカの大統領の交替のとき、様々な論争がなされ、その観点から論じられました。ジューイッシュ・センターへの攻撃事件が、捏造されたものだと分かり

ました。それは、情緒不安定なユダヤ人が、犯したもので、そのために告発されたというものでした。しかし、それは偽りでした。このこと自体は喜ばしいものですが、過去10年の間、反ユダヤ主義が台頭しているようだという事実は変わりありません。たしかに、最近のピュー研究所の調査では、ユダヤ人はアメリカ人から温かい好意を獲得していると指摘しているのですが。

名誉毀損防止同盟（ADL）は、「全世界の反ユダヤ主義調査」を公開しました。それは、世界的レベルで何が起きているか、より良く知ることのできる優れた手段です。そこでは、アメリカの反ユダヤ主義への支持率は10%で、それに反して、ハンガリーは40%の支持率、各アラブ諸国を除いて、ギリシアとマレーシアは最高の反ユダヤ主義支持率を示しているということを明白にしました。

AMCHA イニシアチブ（ヘブル語で「あなたの同胞」という意味）は非営利団体で、北アメリカの大学校内での反ユダヤ主義を記録し、またそれと戦うことを目的としています。そして、今年（2016年）何が起こったか例を挙げています。そこでは、2016年1月から4月の間に171件の反ユダヤ主義事件を記録し、また現時点ではその数は300件を超えているだろうとみています。

これらの数は反ユダヤ主義が引き続き成長していることを反映しているものです。ここで私は、2箇所の地域に焦点を当て、3つ目を述べたいと思います。まず、悪質な反ユダヤ主義事件のあるものは大学のキャンパスで起こっています。例をあげますと、2015年5月、カリフォルニア大学アービン校でイスラエル国防軍（IDF）の兵士を描いたドキュメンタリー映画「ヘルメットの許に *Beneath the Helmet*」が上映されたことに対して、激しい抗議が起こりました。

反イスラエル主張者は、「インティアード（パレスチナ人の対イスラエル闘争）、バンザイ！1948年来の避難民バンザイ！ここには何も記念するものはない。」と大声で叫びました。なお悪いことには、ユダヤ人学生（その中にはIDF経験者も）安全を確保するため、建物に立てこもりました。残念なことに、抗議運動は暴力的なものとなりました。

最近、UCIが事件の調査をごまかしている、あるいは、なお悪質なことに、事件を葬り去っているという申し立てがされました。スチューデント・サポーターズ・イスラエル（SSI）の創業者であり代表のリアン・シネリコフは、激しい抗議のターゲットは彼の主催するUCIの集会だったのですが、「大学当局は、私たちとコンタクトを取りませんでした。おそらく、ある学生にはコンタクトを取っていたのかもしれませんが、それ以上は…」と言っています。

外見上、このような行為の源はイスラエル・パレスチナ紛争だと思われます。キャンパスでの反ユダヤ主義の台頭を加速させる他の問題も挙げることはできますが、中東紛争が今日の問題の推進力となっているようです。

構内反ユダヤ主義の例証として、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で、ユダヤ人女子学生が生徒会長に立候補する選挙では、学生が抗議し、親パレスチナの学生たちは、この女子学生はキャンパスのアラブ系学生に対して公平ではないと

感じました。

チョーズン・ピープル・ミニストリーズ (Chosen People Ministries) は、カリフォルニア大学職員委員会に陳情し、反ユダヤ主義についての定義を練り直し、反ユダヤ主義の行為を犯すものを強く抑制するよう、厳しい規律を制定するよう求めました。さらなるキャンパスでの攻撃も言及されました。

ここで、ナチスの台頭時のヨーロッパでの反ユダヤ主義の高まりと新たに生じた状況についての宣教団体の対応について見ていきましょう。

\*\*\*\*\*

## 第二次世界大戦中の救出と救援：ウィーンの状況

ウィーン会議 (the Vienna Conference) は、1938年3月15日ヒットラーがウィーンを侵略する1年足らず前には終わりを迎えていました。この侵略は、アンシュルスあるいはオーストリアの併合として知られているものです。当時、ユダヤ人側の統計によれば181,778人のユダヤ人 (コーエンの言う統計とは少し異なりますが) がオーストリアに住んでおり、その90パーセント以上はウィーンに住んでいたといえます。ナチス指導者ヒムラーは、ナチス側の統計では220,000のユダヤ人が住んでいたと主張していました。ヒットラーとゲッベルスは、ユダヤ人の完全絶滅を謀っていました。

週刊新聞シュテルマーは、20世紀には、街角に並べられていました。間もなく、ドイツ民族法 (German racial laws) が施行され、町に在住のユダヤ人176,000人のうちおよそ47,000人のユダヤ人が貧困に陥りました。4ヶ月後には、ウィーンだけでおよそ7,000人のユダヤ人の自殺した記録されています。(1987:45)

あるウィーンのクリスチャンが、ヨセフ・ホフマン・コーエンにナチスの猛攻撃の詳細を書き送りました。コーエンは、手紙に書かれている内容を要約し、友人に送りました。その一部分が、『チョーズン・ピープル・マガジン』に掲載されており、私たちは、当時の生々しい記述を読むことができます。

「海を渡って、たった今、悲しみに沈んで帰ってきました。主がここ5年の間に来てくださるか、ヨーロッパのユダヤ人嫌悪プログラムが完璧に方向転換しないかぎり、中央ヨーロッパのユダヤ人は絶滅してしまうという事実から目をそらすことはできません。オーストリア、ドイツ系ユダヤ人に会い、彼らの口から、歴史的史料文献にしか記録されていないような蛮行や残虐な行為の話を聞くとぞっとしました。妻は夫から離され、子供たちは両親から引き裂かれ、この地獄の苦痛から逃れようとするユダヤ人が、狩られる動物のように憔悴しきった状態になるまで、苦悶の上に苦悶を重ねるのです。多数の無力で罪のないユダヤ人が、男も女も子供もナチスの兵士に路上で捕われ、何が起こったか家族に伝える機会も与えられず、残忍なナチスの言う「保護拘置」という強制収容所へ引き立てられて行きました。なにが保護でしょう！むしろ私は、カーテンを下ろして隠してしまい、何が起こったか、また不潔で、苦悶に満

ち、常軌を逸した言語に絶する場所で何がなされているかなど語らないほうが良いと思うほどです。」(CP 1938b, 2:1)

ナチスは、アンシュルスの初めの数年の間、オーストリア系ユダヤ人に移住する許可を与えました。1938年7月から9月の間に、1ヶ月につき8,600人がオーストリアを去りました。1939年までには、109,060ユダヤ人が移住し、66,260人が残りました。1939年11月、アイヒマンは移住するのに1年の猶予を与え、12,000弱のユダヤ人が移住することができました。戦争が終わるまでには、残った53,403人のほとんどが強制収容所に送られ、殺害されたことが明らかになりました。(EJ 1971, 3:898-900)

スウェーデン・イスラエル・ミッション (SIM, Swedish Israelite Mission) は、スイス・フレンズ・オブ・イスラエル (Swiss Friends of Israel) とアメリカからの基金の援助でユダヤ人、特にユダヤ人クリスチャンの救助に力を入れ始めました。1938年から1940年、ナチスがミッションに門戸を開いたその機会に、オーストリアからユダヤ人クリスチャンを連れ出すためあらゆる努力をしました。(International Missionary Council Christian Approach to the Jews-IMCCA 1940:1)

ブロックウェイは、「難民の救助は、ウイーン、ワルシャワ、ドイツの宣教基地が働きを許されるかぎり、福音伝道より優先されるものでした。」と力説しています。(1987:46)

とは言うものの、私たちは、これらの情報は、宣教師のレポートにそって伝えざるをえないことは確かなことです。彼らの救援活動は常に福音伝道の骨折りとリンクしているのです。かれらは、ある者が、ある者のために犠牲にされなければならないとは、とても思えなかったのです。

宣教団体は、ユダヤ人の救助を、彼らをウイーンから「密航させる」ことさえ、彼らの使命に矛盾することではなく、むしろそれは、主やユダヤ人に仕えるという責務の一部だと見なしていました。ユダヤ人をウイーンから救出したとき、宣教師はイエスについて彼らに語るすることができました。コーエンは、ナチスの初期占領時代の、リヒテンシュタインの働きを、1938年に下記のように報告しています。

「私たちの最新のレポートです。エマニュエル・リヒテンシュタイン氏は制限された状態ではありますが、ウイーンでの働きが継続できています。ただ、それほど長くは続けることは許されない恐れがあります。最近のレポートから、私たちは幾つかの重要な記事を次のように選びました。それは、私たちが、ナチスの蛮行の新しい中心で遭遇しなければならない諸事情について、読者が少しその内情を知ることができればと思うからです。

『私たちの宣教の働きは日ごとに増し加わり、救助を求めるユダヤ人の列は日々長くなっています。私たちは、これらの果たすべき仕事は、神の助けと支えがなければ、なし得ないということを知っています。オーストリアをすでに出たユダヤ人やユダヤ

人クリスチャンから多くの手紙をもらっています。そして、手紙の多くは、大変心打たれるものです。このような人々を助けることが無駄ではないと知るの大きな励ましとなります。というのは、困窮の中で真の助けを与えることができる主に信頼することこそ最も大切であると、いま彼らは理解しているからです。』(CP 1938c 3:12)

コンラッド・ホフマンは、1938年、Tamboram での IMC の集会のレポートで、これらの活動は、ユダヤ人のために必要であると次のように強調しました。

「私たちの IMCCA ウイーン集会以後、ヨーロッパでの出来事は状況を大きく変更させ、私たちの計画も変えざるを得なくなっています。計画の多くは、まったくだめになっています。ですから、新しい計画を立てる必要があります。ユダヤ人宣教機関として、なすべき第一義的任務があるように思います。現在のところ、宣教の働きをしているということは、とりもなおさず、この任務は避けることのできない責任あるものとなっているということです。」(ブロックウエイ 1987:83)

ホフマンは、どのようなことがなされたか、続けて詳細に語りました。

「ハンブルグ、ベルリン、ウィーンのミッションセンター、そしてそれほどではありませんがプラハ、ブダペストのセンターは、必要が生じていること、そして極めて貴重な助けを提供する必要を実感していました。スウィーディッシュ・フレンズ (The Swedish Friends) は、継続のため政府の許可が下りた場合に限ってという条件の下、パリに、同様の助けを提供するためのセンターを最近オープンしました。このような活動は、資金と人材によって大きく展開される必要があります。」(ブロックウエイ 1987:83)

コンラッド・ホフマンは、ナチスの占領している地域からユダヤ人を移そうと一身をささげ努力をしていました。門戸は急速に閉じられ、ウィーンの IMC のみが脱出可能なルートの一つを提供していました。ホフマンは IMC のウィリアム・ペイトンに、次のように書き送っています。彼は、ユダヤ人を汽船で移送する手配をしようとしたが、船会社がマルクでの支払いを拒否したというのです。これは、ウィーンでのミッションの活動状況のレベルを物語っていると、次のようにペイトンに説明をしました。

「ともかく、我われウィーンのスウィーディッシュ・ミッション (The Swedish Mission) とベルリンの Pfarrer Grueber は、なんとかまだ活動を続けています。今朝も、難民の仕事をしている間も、両センターから新たな連絡がありました。」(1939a)

数年後、ウィーンの SIM のリーダーで、後の IMC の主事である Gote Hedenquist は SIM ウィーンでの出来事、活動について述べています。

「インタナショナル・コミティー (the International Committee) の働きは、第二次世界大戦前の数年、ナチスの迫害からユダヤ系クリスチャンを可能な限り救出するた

め特別に重要なものでした。戦争下の政治的脅威の状況の中で、1937年、「ユダヤ人に対するクリスチャンの働きかけ」について国際宣教審議会会議（the International Missionary Council's Committee）はウィーンで大規模なユダヤ人宣教会議を招集しました。

難民問題は会議で一番重要な検討事項でした。この会議で、様々な国との間に人脈が築かれたため、その後の3年間に多くの人々を強制収容所や絶滅の危機から救い出すことができました。ウィーンのユダヤ人のためのスウィーディッシュ・ミッションはこの救出活動の本部となり、1941年門戸が閉じられたときには、3000人のユダヤ系クリスチャンを世界の他の地域でより良い未来を築くため、ドイツやオーストリアから脱出させることができたとの報告ができました。」（1954:6）

リヒテンシュタインは、1939年スウェーデン人と活動を続けるようになりましたが、コーエンは彼の身の安全について不安を感じていました。コーエンは次のようにリヒテンシュタインについて手紙を書いています。

「オーストリアのウィーンにいる私たちのため祈ってください。私たちの敬愛する兄弟リヒテンシュタインがいつ逮捕され、強制収容所へ送られるかわかりません。戦況のため、『ユダヤ人嫌悪』はいまや増大するばかりです。この夏にリヒテンシュタイン氏がロンドンにやってきました。彼は、聖徒のごとく、自己犠牲の兄弟です。私は、彼の命が失われないかと危惧し、ウィーンに戻らないよう頼みました。しかし彼は、自分の義務を回避することは、全く卑怯で、神に対して不従順だと言って、ウィーンに戻ることを言い張りました。彼は、追い出されるまでウィーンに居るつもりだと言いました。彼には、私たちの祈りが本当に必要です。」（1939:3）

次にコーエンが書いたリヒテンシュタインの宣教についての長い記述は、宣教師たちがこのおぞましい時期に直面した日々の実際の戦いについて、類のない見識を私たちに与えてくれます。

「ドイツでの戦況にもかかわらず、ナチスは旧オーストリアのウィーンで仕事、それは私たちが関わっていた仕事ですが、そのままにしていました。私たちが携わっていたユダヤ人宣教は、スウェーデンのストックホルムに本部があるスウィーディッシュ・ミッションナリー・ソサエティ（Swedish Missionary Society）の兄弟たちによって働きが継続されていました。彼らをとおして、私たちはエマニュエル・リヒテンシュタイン氏を支えてきました。彼については、先月少し報告しましたが。」

「エマニュエル・リヒテンシュタインは、私たちの代表として素晴らしいクリスチャンの奉仕をしてくれました。彼をとおして私たちは、特にキリスト・イエスの尊い招きを知らずに悲観していたユダヤ人難民を数多く救い出すという素晴らしい仕事をしてきました。おそらくスウェーデンの兄弟たちを通じて資金が、また私たちが送った資金も含めて、ウィーンにかなりの金銭が入ったことにより、ナチスはまだ私たちのミッションを閉鎖していないのだと思います。なぜミッションが任務を遂行する

のを許されているか理由を推測する事はさておき、福音を述べ伝える機会を継続させてくださる神に感謝しています。」

「ウイーン宣教団体の主事は、リヒテンシュタイン氏がどれほど貧しいユダヤ人に愛されているか、数百数千人ものユダヤ人に慕われているか、12人のボランティアスタッフを用いて、巡回・救援・職探し・難民移住・医療介護や他の多くの活動の見事なプログラムを作り上げたか、話してくれました。」(CP 1939e, 2:8-9)

ABMJ はユダヤ人をウイーンから、そして死の運命から救出することに大きく関わっていました。コーエンによると、この活動は1939年後半まで行われました。

「私たちは、ウイーンでの活動を続けます。それは、スウェーデンの兄弟たちとのコネクションがあるからです。また私たちは、再定着をとおして何かを行いたいと思っています。当面は何も報告することはありません。しかし、私たちは有益な計画ができるまで待つてはいません。個々の計画をできるだけ早く進め、過度の遅れや、はなはだしく慎重を欠くことのないようにしたいと思います。(CP 1939b, 5:6)

最も驚くべきことは、1940年にコーエンが ABMJ の支援者に送ったレポートの内容でした。それには、リヒテンシュタインの仕事は、1940年に至ってもなお続けられていたということです。コーエンは、「最後のレポートには、ミッションの事務所は、福音を聞くために集まったユダヤ人でいっぱいになり、次々と洗礼を受ける者が与えられ、み言葉は驚くほど自由に人々に伝えられました。」書いています (CP 1940c:3)

ABMJ のオットー・シンガーは、ニューヨークのユダヤ人のために働いていますが、ウイーンで主を受け入れ、ナチスの手から逃れることのできたある家族の話を『チェーン・ピープル・マガジン』に報告しています。

「S兄弟は、ウイーンの大きなデパートのマネージャーとして20年以上も働いていました。アンシュルス後、彼は仕事を失い、アーリア人でないという理由で仕事を見つけることができませんでした。彼は、ウイーンのスウィーディッシュ・ジュエッッシュ・ミッションのリヒテンシュタインに連絡を取ってきました。間もなく彼は、主イエスを個人的な救い主として受け入れ、洗礼を受けて信仰を告白しました。ソサエティー・オブ・フレンズの骨折りによって、オハイオ州のあるクリスチャンが彼のために、宣誓供述書を用意してくれました。数週間前に、彼はニューヨークに到着し、私たちは、彼のために部屋を借りました。彼は、ここでは、同胞のユダヤ人と住むことはできないし、住もうとも思わないでしょうから。S兄弟は、私たちの礼拝に規則正しく出席し、他の人たちにとっても祝福となっています。(CP 1940a 6:8)

間違いなく、コーエンは、状況が耐え難いほど悪化し、ついにはリヒテンシュタインとその家族は危険な状態に陥るだろうと承知していました。彼は、1941年の春、

チョーゼン・ピープルの読者にナチスの強制移送の激化について、次のようにレポートを書き送っています。

「ここ2、3日の間に、私たちが電報や手紙で受け取っている情報がラジオニュース速報で流されます。その情報が公になりますので、同じく私たちが読者の皆さまにお知らせいたします。その驚くべきニュースというのは、ウイーンを支配しているナチスが、ユダヤ人の間にチフス菌をばら撒くという、恥ずべき非道な犯罪を行ったというものです。そのため、悲惨なユダヤ人は集団でチフスに罹っています。そして、このことがナチスに、ユダヤ人の大規模な国外追放の口実を与えているのです。多くのユダヤ人は家畜輸送車に詰め込まれ、または、オーストリアの原野を駆り立てられて、ポーランドの隔離地へ「彼らを安全を守るために！」送られています。もちろん、その目的は明らかなことで、手も足も出ない犠牲者を悪魔の狂暴な炎で絶滅させようというのです。(CP 1941b, 6:10)

コーエンは、ABMJ がエマニュエル・リヒテンシュタインをオーストリアから無事に導き出し、新たな奉仕を得ることができるよう、彼と彼の家族のために祈りを要請しています。

「私たちの支持者である皆さんに特に祈っていただきたいと思います。ウイーンにいる私たちの宣教師エマニュエル・リヒテンシュタインと彼が行動を共にしている多くの宣教師のため、また恐怖の時のシェルターを求めてゼーガッセのミッションへ群れをなして来ている何百ものユダヤ人クリスチャンのために祈りを必要としているのです。私たちは、リヒテンシュタインをウイーンから連れ出し、ブエノスアイリスのような南アメリカの港に連れてゆき、私たちの宣教師として働きを継続できるよう最大の努力をしています。ブエノスアイレスには、現在、何千というユダヤ人の難民がいます。

「私たちは、またリヒテンシュタインをアルゼンチンに送ることができないと分かった時に、彼を上海に送ろうとしています。そこには20,000人ほどユダヤ人難民がいて、その多くは主イエス・キリストを信じています。(CP 1941b, 6:19)

## ウイーンの状態

コーエンは、ナチスとSIMとの相互関係についてのある見解を示してくれました。

「ウイーンでは、状況は非常に悪化しています。私たちは、スウィーディッシュ・ジュエイツシュ・ミッションナリー・ソサエティ (Swedish Jewish Missionary Society) の保護の下、エマニュエル・リヒテンシュタインをサポートしていました。このソサエティは、ウイーンのユダヤ人地区にユダヤ人宣教のための素晴らしく効率のよい装備の整った建物を所有しています。私たちは、リヒテンシュタイン氏に、ユダヤ人に分配するため助成資金を毎月送っています。これは、私たちの宣教師について、私たちが私たちの資金を使い、私たちから直接給与を受け取り、私たちに報告する責任があり、スウィーディッシュ・ミッション・ソサエティの監督下、私たちの指令によっ



て働きをするというケースです。

「スウェーデン政府と目下のところまだ友好的な関係にあるナチスとの経済的調整をとおして、私たちは資金をストックホルムに船便で送ることができ、そのルートを使ってウイーンに資金を送ることができています。しかしながら、この状態がいつまで続くか、その保障はありません。最新の情報として、ナチスがスウィーディッシュ・ミッションに、病気のユダヤ人の世話をするためウイーンに病院を建てるよう要求しているとのこと。ナチス政府はユダヤ人のため、病院施設を提供することができないからだといいます。もし、ウイーンのマッションがこれを行うなら、宣教と救済活動を継続することが許されるといいます。

「ナチスは病院を維持するため、少なくとも1ヶ月3,000ドル保証することを強く願っています。というのは、英国からの送金が完全に止まってしまい、私たちが唯一の希望だと彼らは言っているのです。しかし、私たちはナチスが誠実に約束を守るとは思えず、病院が建てられ、設備が備わったあと、ナチスが施設を没収し、自分たちのために使わないという保証はありません。ちょうど、ハンブルグのアーノルド・フランク牧師の素晴らしい病院施設を彼らが没収したように。そういうことで、私たちはこのような要求についてどのような義務も請け負わないつもりです。しかし、かの地で福音を語り、救援活動をする機会があるかぎり、毎月の送金は続けるつもりです。これは、敬愛する兄弟のための祈りに加え、よく考える必要があります。(CP 1940b, 8:5-6)

1954年、IMCのアメリカ地区、エバンストン事前ミーティングで Birger Pernow は、IMCの第二次世界大戦中に行ったユダヤ人救出活動についてさらに詳しく明らかにしました。彼は、次のように記述しています。

「ナチスの迫害のときに、スウェーデンの国王はユダヤ人のために間に入り、被害者を助け、サポートに多大な力を尽くしました。余談ですが、私たちの「ユダヤ人に対するキリスト者のアプローチ」(the Christian Approach to the Jews) 委員会は、大陸の怯えているユダヤ人を救い、サポートするためあらゆる手段を取った最初のクリスチャン組織であったことを覚えていただきたいと思います。

「ウイーンのスウィーディッシュ・ミッションの私たちのリーダー Mr. Hedenquist は、ヒットラーがウイーンを占領した後、すぐにウイーンに来るように連絡をしてきました。最初の週に、ユダヤ人が経験したあらゆる冷酷非道な行い、とくにナチス親衛隊の残虐な行いを目撃し、ヨーロッパで起こった恐ろしい大惨事に直面しなければならないと思い知りました。

「私はすぐに、私たちの委員会のニューヨークの事務局長 Dr. ホフマンに手紙を書き、1938年5月3日にロンドンで特別委員会を開くよう要請しました。そこで、大陸の怯えているユダヤ人を救出する手段を検討するためでした。この時、ウイーンから1,000人の子供と2,000人の大人を助け出すことができました。(1954:11)

ウイーンのSIMは、当局の妨害なしにまだ活動を続けることができていました。IRMのレポート（ペイトン、アンダーヒル 1940:108）には、聖書研究のグループや教会の礼拝は、どこも人々で溢れていたと記されていました。

SIMの活動は1941年まで続けられ、クリスチャンの人々は、彼らの救出、救助活動における労力によく注意をして見ていました。

「ドイツ軍による占領下のヨーロッパ諸国での宣教の働きの多くは、中止となり、まだその国々にいる宣教師について報告はほとんどありません。一方、ハンガリー、バルカン諸国、北アフリカ、パレスチナでは、宣教師はまだ働きをしています。そしてこれらの施設からのレポートは励みとなるものでした。オーストリアでは、スウィーディッシュ・ミッションとソサエティ・オブ・フレンズは、クリスチャンユダヤ人の必要のために懸命に働いています。（ペイトン、アンダーヒル 1940:94）

ウイーンのリヒテンシュタインは、命を脅かす危険から免れました。コーエンは、1941年春刊の『チョーズン・ピープル・マガジン』に、リヒテンシュタインはウイーンからストックホルムへ飛行機で脱出したと書いています。（CP1941c, 7:1）

「彼はストックホルムからブエノスアイレスへ移入し、そこでおもにナチスの暴虐から逃れ南アメリカへ移住したユダヤ人の中で、宣教の働きを続けました。

大戦が終了するまで、70,000人のオーストリア系ユダヤ人が虐殺され、加えて、ヨーロッパの他の国に逃れた20,000人のユダヤ人は、逃れた国にナチスが侵攻し、そこで殺害されました。特に、ウイーンにいた宣教師の英雄的努力がなければ、もっと多くのユダヤ人信仰者が殺害されていたでしょう。

\*\*\*\*\*

### ユダヤ人宣教団体として意見の提案

ユダヤ人が脅威にさらされているとき、過去のユダヤ人宣教団体が彼らの生活のなかでの働きを考慮に入れて—

私たちは次のことを考える必要があります。

1. ユダヤ人宣教は、ユダヤ人共同体のために働く必要があります。反ユダヤ主義に対抗し、そのためには、教会の協力を得るということも含まれます。チョーズン・ピープル・ミニストリーズは、反ユダヤ主義に対抗するため、過去15ヶ月に8回のオンライン提言を、またブログ、私たちのニュースレターにも記事を追加し行ってきました。

2. 反ユダヤ主義に対抗することは、イスラエルとユダヤ人に対する神の愛の証しとなるだけではなく、今も神によるユダヤ人の選びは続いていることを確認し、サタンが、霊的問題と思われるものの宇宙的根源であることを認識するものであります。

3. ユダヤ人宣教団体として、私たちはクリスチャンとユダヤ人共同体との祝福の架け橋となり、ユダヤ人と共に反ユダヤ主義に対抗するようクリスチャンを動員する助

けをします。これらの働きは、命を救う可能性を秘めています。

4. 私たちは、ユダヤ人共同体とコミュニケーションを図り、キリストのより大きなみ身体につながるようメディアを活用することができます。私たちは、フェイスブック広告、ネット署名、祈祷宣言など、この新しい道具を利用し、オンラインの活動をするべきです。同じく、私たちの出版物、クリスチャンメディアも利用ができます。

5. 私たちは、人々を促し行動を起こさせたいと望んでいます。しかし、おそらく、またとない機会の一つとして、情報を集め、クリスチャンにそれを幅広く行きわたらせるということがあります。クリスチャンの共同体は、私たちの宣教に信頼を置いており、良い情報は、遠く私たちの同胞クリスチャンに、状況が緊急であること理解させ、そして、願わくば、彼らが行動を起こすように助けることができるからです。

### 行動を起こす必要

私たちの最近のウェブサイトのブログで、ニューヨークシティで起こった出来事についてコメントをしました。それは、一般の反ユダヤ主義や人種主義に対して個人的立場に立って正しい行動を起こすために、たしかに私たちを、励ますような出来事です。

見過ごしてしまうにはあまりにも恐ろしい！これが記事のテーマで、『ニューヨークタイムズ』に最近掲載されたものです。見過ごしてはいけないひどい行為というのは、ニューヨークシティの地下鉄車両の側面に反ユダヤ主義の声明文を書いた行為のことでした。多数の良いサマリ人がその書かれたことを見て、それを消そうという思いたちました。彼らは、アルコール度の高いハンドクリーナーを活用して、シャープー油性ペンで書かれたひどい落書きの文字を効果的に消すことができるだろうと思いました。

ごく一般のニューヨーカーが憤り、率先して、卑劣な落書きを根こそぎ消してしまうことに対して、どれほど嬉しく感じたか言葉で言い表せないほどです。この美しい隣人愛に富む行為に参加した人が、自分の携帯で消される落書きの写真を撮り、フェイスブックに掲載しました。感謝なことに、50万人の以上の人、その数は増えつつありますが、何があったのか気づき、彼の行為を支持、そして、このような忌まわしい表現がそのままにされ、人の目に着くことは許されないとしました。

ニューヨーカーとして、ユダヤ人として、メシア・イエスに従うものとして、ユダヤ人のために行動を起こした良い市民の方々に感動を覚えました。彼らの名前からみても、行動を起こした人々は、明らかにユダヤ人ではないようです。

### 希望があります！

勇敢な心を持って、傍観せず、公共の場で彼らが憎悪を吐きだすことを許さない人が存在するかぎり、つまりそれは、反ユダヤ主義をはじめとする、ゆがんだ人種差別という考えを助長させるような行為は許さないという人がいるかぎり、私たちの国には希望があると信じています！

おそらく、あなたは、次のような使い古された言い回しを聞かれたことがあるでしょう。私たちの共同体で、暴虐の癌細胞、そして私たちの魂を破壊する憎しみに対処できる唯一必要なことは — 何もない。勇敢な魂が行動を起こすため、おそらく意識はしていないかもしれませんが、聖書から、2節のみ言葉を挙げることができます。これらの節は、ユダヤ人や他の人々に向けられる憎悪に対して、私たちの崇高な抵抗がくじけることのないよう強く励ましてくれることでしょう。

先ず第一に、ユダヤ人預言者ミカが記している1節です。

**「主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公儀を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」(ミカ6：8)**

もう1節は、メシア・イエスが言われた言葉です。

**「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」(マタイ5：13)**

確かに、私はこれら善意の、正しく、親切で、愛すべき、謙虚な、私はここに勇敢なという言葉も加えたい、ニューヨーカーの行為を支持し、彼らが、ユダヤ人のため、また人種的嫌悪に対して即座に行動を起こしたことを高く評価します。あのような落書きを消すには勇気が要ります。彼らの行為は、食物を保存するため、同時に香りと味を加えるという、あの一世紀の英知を思い起こさせます。彼らの機敏な英雄的行為は、私に次のようなことを証明してくれました。ニューヨーカー、そして願わくば一般アメリカ人は、アメリカには、保存すべき価値のある自由・尊敬・善良という文化があるのだということを信じていると。そして、私たちは、最も大切にしてきた価値あることを喜んで、進んで行動に移すのです。

ミッチ・グレイザー

[mglaser@chosenpeople.com](mailto:mglaser@chosenpeople.com)